

第9回夏休み子ども向け公開講座

平成26年度で9年目を迎える「夏休み子ども向け公開講座」は、佐倉市の「市民公開講座事業」の一環であり、本学が委嘱を受けて実施しています。

2014年8月18日から21日までの4日間で開催し、多くの子どもたちが参加しました。理科、図画工作、国語、音楽Ⅰ、音楽Ⅱ、英語の6講座で構成し、製作活動や体験的学習を取り入れました。



【理科】「楽しい理科実験」



【図画工作】「夏休みの課題(ポスターや風景画等)の制作」



【国語】「読書感想文を書こう」



【音楽Ⅰ】「みんなで箏を弾いてみよう!」



【音楽Ⅱ】「手作り楽器を作ってあ・そ・ぼ・う」



【英語】「英語であそぼ」

第2回総合子ども学研究所「実践・研究報告会」

平成25年度は台風の影響で中止となりましたが、2014年10月25日に千葉敬愛短期大学 KEIAI ☆フェスタ 2014 内で「実践・研究報告会」を開催しました。



吉村真理子所長による活動報告に続き、清水一巳所員による「大人の生活体験と遊び観について」の調査報告を行いました。

た(詳細は「日本子ども社会学会第21回大会での発表」参照)。その後本学附属幼稚園の上田和美教諭より清水一巳所員の発表に対するコメントと泥団子製作の実践を例に附属幼稚園での保育実践についてご報告いただきました。



学生ボランティア

通学合宿

佐倉市・八街市教育委員会からの委託派遣事業です。13年目となる平成26年度も佐倉市に12名(9・11月)、八街市に7名(6月)の学生ボランティアを派遣しました。

自分たちで身の回りのことを行うことで、子どもたちも家族の見えない大変さやありがたみを感じたようです。本学の学生も子

どもたちに寄り添い、自立に向けた支援を行っていました。



通学合宿の目的

子ども：親元を離れ、異年齢集団で生活体験を行うことにより、自主性・協調性を高め、心豊かでたくましく生き抜く力を育む。  
 家庭：一定期間、子どもと離れて生活することで、日頃の親子関係を見直し、家庭の教育力向上を目指す。  
 地域：地域の方々や保護者が、共に子どもの生活体験活動にかかわることにより、地域の繋がりを深め、地域の教育力の更なる向上を目指す。

ひとり親家庭の学習支援

8月10日ミレニアムセンター佐倉において、ひとり親家庭の茶話会が開催されました。佐倉市・健康こども部の仲介に



より佐倉市母子寡婦福祉会から依頼を受け、保護者の皆さんが互いの悩みを共有する時間に、本学1年生3名が子どもたちの学習支援を行いました。

佐倉市立小学校の運動会への協力

長年教育実習生を受け入れていただいている山王小学校、寺崎小学校の運動会に学生ボランティアが参加してきましたが、今年度から新たに弥富小学校が実施した地域ぐるみの運動会に本学の1年生3名が参加しました。雨による2度の順延もありましたが、児童係、得点係、用具係として、地域の方、学校職員、保護者とともに汗を流しました。



※紙面掲載の手袋人形「バナナの親子」「まつぼっくり」「鯉のぼり」「ペロ君とミーコ(犬のおまわりさん)」「くいしんぼおぼけ」は、本学の太野雄子准教授による作品です。

総合子ども学研究所  
ニュースレター  
第3号

本研究所は、「子ども」を様々な視点から、学問的・実践的見地に基づいて研究し、本学の教育の充実発展を図ると共に、地域の教育・保育に寄与することを目的として設置されました。

発行日：2015年4月1日  
<http://www.chibakeiai.ac.jp>  
 〒285-8567 千葉県佐倉市山王1-9  
 TEL. 043-486-7111 (代表)

活力ある個性豊かな地域づくりに向けて  
佐倉市との連携協力に関する包括協定の締結



(左) 藤和雄市長、(右) 明石要一学長

千葉敬愛短期大学は、千葉市から佐倉市に移転した1987年より、夏休み子ども向け公開講座、通学合宿、市民カレッジなど主に教育面において佐倉市との連携を進めてきました。2011年から総合子ども学研究所が窓口となり、下記の連携・協力を行っています。2014年8月には、これまでの協力実績を踏まえ、佐倉市との連携協力に関する包括協定を締結しました。今後は互いの資源を更に有効に活用して絆を深め、教育に加えて福祉、子育て、まちづく

りなどの幅広い分野において連携し、取り組みを進めてまいります。

協定による連携・協力事項

1. 市の施策の推進や地域の課題解決に関すること
2. 地域づくり活動やボランティア活動に関すること
3. 教育及び福祉の向上並びに子育ての支援に関すること
4. 人材育成に関すること
5. その他両者が協議し必要と認めること

これまでの主な連携・協力実績

社会教育分野

- 市民カレッジおよびコミュニティカレッジ事業への講師派遣
- 夏休み子ども向け公開講座の開催
- 通学合宿の運営協力
- 現代子ども学公開講座の開催



コミュニティカレッジ

学校教育分野

- 幼稚園・小学校の運動会に協力
- 市立幼稚園・小学校での実習
- 大学と市立美術館による貸出用実物作品を用いた授業の共同研究



佐倉市立美術館

子育て支援分野

- ひとり親家庭茶話会の運営協力(集会時に学生が子どもたちの宿題などを学習支援)
- 保育園の民営化に係る運営法人選定委員会への委員派遣
- 市立保育園での実習

市の施策推進に関する分野 他

- 市行政評価懇話会への委員派遣



# 日本子ども社会学会第21回大会での発表

2014年6月に敬愛大学で開催された日本子ども社会学会第21回大会において、平成25年度敬愛プロジェクト研究「大人のおそびへのまなざし」についての研究発表を行いました。下記にその一部を紹介します。

日本子ども社会学会（会長：敬愛大学 特任教授 武内清）は、

「子ども社会」を総合的に研究する学会です。日本の子ども社会がもつ様々な問題状況を、実証的かつ理論的に究明することを目的として設立されています。



## 大人の生活体験と遊び観について

### 1. 問題と目的

遊びは、子どもにとって自発的な活動であり、「幼稚園教育要領」においても心身の調和のとれた発達の基礎を培う重要な学習と明記されている。

今回、幼稚園・保育所と家庭との連続性を重視した環境構成の形成に関する研究の基礎調査として、子どもにとって重要な人的環境である保護者に、質問紙調査を実施した。

保護者が子ども時代に経験した遊びを含む生活体験の有無と、現在の子どもの関わりの有無について、母親と父親とでどのように違うのかを検討することによって、大人の遊び観の一端を探った。

### 2. 調査方法

#### (1) 調査対象

千葉県内の都市部の幼稚園1園（2013年7月）、同幼稚園2園および郊外の保育所6園（2013年7月から2014年1月）の保護者（父母）を対象にアンケート調査を実施。配布数は1,389部、回収数は882部、回収率は63.5%であった。

#### (2) 調査内容

右表に示す25の生活体験について、保護者自身の子ども期の経験の有無と子どもとの関わりの有無を尋ねた。

### 3. 結果と考察

#### 1) 母親の方が子ども期に多く経験し、子どもとの関わりも多い子ども期の生活体験

「星空を眺める」「影ふみ」「シロツメクサの冠づくり」「ササ舟づくり」「草笛」「缶ぽっくり」

→ 母親は身近な植物や廃材を利用した比較的静的な活動を好むという遊び観がうかがえる。

#### 2) 子ども期の経験の多少について差はなく、子どもとの関わりは母親の方が多い生活体験

「山登り」「どろだんご作り」「凧あげ」「風車」「竹とんぼ」

→ 幼稚園や保育所で積極的に取り上げられていることから、これらの施設に父親より多く関わる事が推察される母親の遊び観に影響していると考えられる。

#### 3) 父親の方が子ども期に多く経験しているにもかかわらず、子どもとの関わりは母親の方が多い生活体験

「木に登る」「こま回し」

→ 父親の子ども期の経験が、子どもとの関わりに生かされていない実態がうかがえる。

これらの結果から、遊びへの関わりにおいて母親の負担感が懸念される。これには、日本の父親の育児参加時間の短さが反映されていると推察される。

生活体験に関する子ども期の経験と子どもとの関わり（ありと答えた割合）

	子ども期の経験		子どもとの関わり	
	母親	父親	母親	父親
受動的な自然との関わり				
・ 星空を眺める	95.0%	89.5%	83.5%	63.9%
・ 屋外でテントに寝る	53.8%	60.7%	15.6%	16.6%
能動的な自然との関わり				
・ 川や湖、海で泳ぐ	93.8%	95.0%	67.0%	62.9%
・ 木に登る	81.7%	95.0%	41.8%	30.6%
・ 焚き火をする	77.5%	87.9%	21.8%	23.5%
・ 山登り（ハイキング）	83.9%	87.1%	52.9%	42.8%
・ 水切り（水面に石を投げる）	90.9%	98.7%	46.1%	41.9%
・ 石蹴り	89.2%	90.6%	45.0%	38.3%
・ 影ふみ	97.9%	93.7%	68.5%	52.4%
昆虫・水生生物採取				
・ セミ、クワガタ、カブトムシなどの虫取り	80.9%	96.9%	58.1%	53.7%
・ オタマジャクシ、カエル取り	80.7%	93.2%	31.3%	26.4%
・ ザリガニ取り	78.2%	96.9%	33.7%	32.2%
・ タガメ、ゲンゴロウなどの水生昆虫取り	43.8%	78.2%	11.9%	13.5%
草木（自然）を使った造形				
・ シロツメクサの冠づくり	92.5%	36.9%	46.9%	12.5%
・ ササ舟づくり	83.5%	73.5%	20.1%	13.0%
・ 草笛	80.9%	70.7%	21.7%	15.0%
・ どろだんご作り	94.0%	93.7%	76.9%	56.7%
伝統的遊び				
・ 凧あげ	96.7%	97.9%	66.9%	55.7%
・ シャボン玉遊び	99.6%	98.2%	98.1%	96.1%
・ 風車	78.9%	75.9%	60.1%	45.9%
・ 缶ぽっくり	86.6%	80.4%	30.0%	18.9%
・ 竹馬	90.6%	91.3%	30.9%	27.1%
・ 竹とんぼ	93.3%	94.7%	52.5%	43.8%
・ 竹水鉄砲	54.8%	70.9%	15.9%	15.8%
・ こま回し	91.5%	95.3%	73.1%	57.0%

# 「現代子ども学公開講座」の開催

本学学生・教職員が地域の皆様や幼稚園・保育所の先生方と、子どもについての学びを共有し、交流させていただき貴重な機会となることを願い、年に2回開催しています。

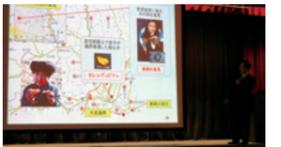
## 第10回 2014年5月13日（火）

### 「科学する心と脳の発達～子どもの学びと育ちを支える大人ができること～」

講師：小泉 英明先生（株式会社日立製作所 役員待遇フェロー）



ヒトは生まれた直後が最も神経回路網の構築が盛んな時期で、乳幼児期の「学習」の重要性が脳科学で実証され始めているようです。子どもは日常生活において無意識に学習していますが、その機会は特に自然との触れ合いの中に多くあるとお話いただきました。



#### 学生の感想（抜粋）

子どもたちが外で自由に遊び、花や虫など、さまざまな自然に囲まれて生活できる環境を、私たちが幼稚園教諭や保育士になった時に作ることで、子どもに無意識に学習する場を与えることができると思いました。

また、実習に行かせて頂き子どもたちと関わる中で、相手を思いやり痛みを共有したりしている子どもたちを見ることがとても多しと感じていました。そういった子どもの心を大切にできる保育者になりたいと思いました。

## 第11回 2014年12月2日（火）

### 「保育の中の遊び論～今、遊びの保育に求められるもの～」

講師：加用 文男先生（京都教育大学教授）



遊びの本質の一つとして「妖しさ」を挙げられ、「妖しさ」は探求心（好奇心・不思議心）と魅入られ（惹きつけられ）体験からなるとして、ズボンお化け（本学HPに掲載）のお話をご紹介いただきました。



#### 学生の感想（抜粋）

実際に光る泥団子を手にとらせていただくことができとても感動しました。見た目はゴムでできているように見えたが、触ってみると少しザラツとしていて本当に泥でできているのだと実感しました。幼い頃からよく作ってきたものとは180度違う泥団子だったので本当に感動しました。

また思いがけないハプニングも子どもと一緒に楽しんでしまえるような保育者になりたいと思いました。子どもが気兼ねなく自分自身を出し安心して過ごすことができ、面白いことを日々見つけられるような環境づくりや関わりをしていきたいです。

## 皆さまの参加をお待ちしております！

- ※ お申し込みは、本学ホームページより、または上記代表電話にご連絡ください。
- ※ 本学ホームページの総合子ども学研究所内に「現代子ども学公開講座（第1～5回）」講演集録第1号（2012年3月刊行：PDFファイル）を掲載しております。是非ご覧くださいませ。

### 第12回公開講座

#### 「隣の人～子どもにとっての揺るぎない誰かがいること～」



日時：2015年5月12日（火）16:40～18:00  
講師：菅原 哲男先生  
（児童養護施設「光の子どもの家」理事長）

### 第13回公開講座

#### 「思春期を迎えた子どもたちが人生を引き受けるということ～『千と千尋の神隠し』を読み解きながら～」



日時：2015年12月1日（火）16:40～18:00  
講師：光元 和憲先生  
（ちば心理教育研究所 所長、NPO法人虐待から子どもを守る支援ネットワークちば理事長）